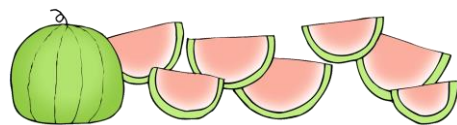


# 図書館ひろば



## 多摩市立中央図書館 訪問記

7月17日(水)につなぐ会有志の皆さんと一緒に、多摩市立中央図書館を訪問・見学してきました。広報担当の方が施設を解説しながら案内して下さいました。昨年7月にオープンしたばかりの新しい図書館です。広い池のある公園は今も工事中でした。図書館2階入口にカフェテラスがあり、眺めの良い景色が見える環境に恵まれています。

入口すぐにモバイル書架が4台あります。「書店と図書館のおすすめ本」のコーナーでは、両者が協業されていることが分かりました。貸し出し中の本を知らせる札が工夫されていて、特に QR コードで書誌情報が確認できます。

2階中央にはサテライトカウンターがあり、多摩市役所が地域課題などを市民と共有する場として活用されています。円台形の珍しい陳列で、本を手に取りやすいです。

同階は、おはなしが OK のゾーンで読み聞かせのエリアもあります。訪問日には、スマホ教室が開

催され、予約がなくても当日そこで知れば参加できる仕組みが開放的です。

1階は対照的に「静寂読書室」をはじめ、静かに過ごす場にゾーニングされていました。パソコンも含めて物音が禁止されています。個人研究室や対面朗読室も設けられています。書架は高く5~7段あり、参考図書も混ぜて配架しているのが特長です。IC タグ化とシステムは進んでおり、予約受取の専用ブースではセルフで受け取り可能です。

全体を通じてとても開放的な設計になっています。特に2階のラーニングコモンズでは机を自由に動かせるようになっており、中高生の利用が増えているとのこと。図書館を読書の場というだけでなく、情報空間としてのサービスも提供しているスタイルが新しいと感じられました。

最後に、訪問にあたって、ご対応・ご説明下さいました職員の方々に厚くお礼申し上げます。現場のかたのお話をお聞きできましたことは大変貴重な経験でした。

(渥美)



## 夏の調べ学習講座が開催されました

7月21日(日)、「図書館で調べて、新聞を作ろう!」が市立図書館で行われました。小学1年生から5年生のお子さんが参加しました。講師が新聞の見出しのつけ方などの説明をしたあと、自分のテーマを考えたり、新聞名や見出しを考えたりしました。使う資料を1階児童コーナーで探して、新聞記事にまとめました。

7月27日(土)には、「ネットと本で調べ学習体験講座」が橋本図書館で行われました。小学1年生から5年生のお子さんが参加しました。講師が調べる流れを説明したあと、こどもの本コーナーに行って、調べたいテーマに関連する本を探しました。合わせて研修室のパソコンでネットの情報も検索します。調べたことは冊子にまとめました。

できあがった作品には、保護者のかたにも、付箋に感想を書いて貼っていただきました。子どもたち

がまとめた内容をじっくり読んでコメントを書いている保護者のかたが多くいらっしゃいました。

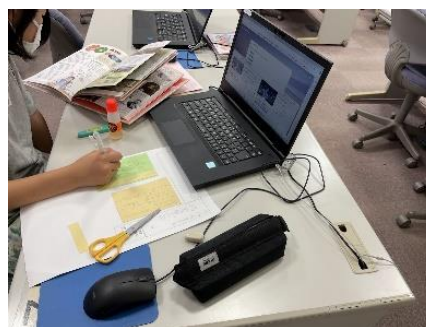
この調べ学習講座は2012年からスタートし、途中コロナ禍もあり1回お休みしましたが、12年続いています。今年は6名のリピーターが参加してくださいました。中には3年連続で参加しているお子さんもいらっしゃいます。また以前お兄さんが参加して楽しかったので、今度は弟さんが参加してくださった、というかたもいました。長く続けていくことの意義を改めて感じました。

子どもたちの選んだテーマが、オリンピック、新しいお札、雷、マグロの漁獲高など、今の世情に関連したことが多かったのも印象的でした。

参加してくださったみなさま、ありがとうございました。  
(中塚)



市立図書館のようす



橋本図書館のようす



## ＜点字ブロック今昔物語＞の連載執筆に込めた一ユーザー・一市民の願い

私は本年、月刊誌上での初めての連載の機会をいただいた。日本青年館の公益事業部「社会教育」編集部から毎月発行されている、『社会教育』2024年3月号から8月号(通巻933~938号)までの6回。〈点字ブロック今昔物語〉と題し、創刊以来78年続く歴史ある同誌に、実に16年ぶりの掲載。見開き2ページの〈社会教育を見る眼〉という、20年以上続く伝統ある連載コーナーに拙文はおさめられた。同欄には〈「共生社会教育学」序説〉との副題が添えられ、歴代執筆者や編集者の熱く深い思いが込められている。「1回ではなく続けて!」との依頼を、覚悟を決めてお引き受けした。ぜひご一読いただけたらありがたい。

点字ブロック(正式名称:視覚障害者誘導用ブロック)と私との今昔を綴る決心をした理由の1つは、連載開始が3月号と聞き、3月18日が「点字ブロックの日」であることを、まず読者と共有したかったからである。点字ブロックは、岡山県民だった故三宅精一氏によって1965年に考案されたもので、点字ブロックが1967年3月18日に公表(岡山で初お目見え)されてから全国→世界中に流布された、“日本発”の視覚障害者の安全な歩行を支援するために作られたバリアフリー設備であることを伝えたかった。あまりユーザーを見かけず、例え少数であっても点字ブロックを必要とするユーザーが我が市我が町にも必ずいますよ、生活していますよ…とのメッセージを。全盲や全盲に近い視力の人も“歩いていること”に思いをはせていただけたらと願って筆を執った。

もう1つは点字ブロックの存在が軽視されていると痛感するようになったからだ。行きつけの図書館に向かう歩道に敷設された、黄色い“線と点の形状”

のブロックの真上に覆いかぶして停車するトラックに遭遇する日が、昨秋から急増した。周辺店舗等に来た方ものと思われる自転車もブロックの真横にくっついて放置したまま、その自転車やトラックに私が度々激突、心痛めている。全盲の私は、市内へ転居後もずっと、仕事柄毎週のように図書館に定期的に来館する。定期的な通いには同行ヘルパーの利用ができず、体力維持のウォーキングも兼ねて、往路は白杖を使って単独で歩いている。最寄り駅から図書館までの動線に敷かれた点字ブロックを頼りに歩く一ユーザーである。その往路で、ブロック上やブロックすれすれに放置し歩行を妨げ障害となった車に、白杖や体がぶつかったのは昨年10月以降、本稿執筆時までの間に計5回ある。

「ブロックユーザーは見かけないから、ちょっとくらい止めてもいいのでは?」「駐車スペースがなく、我々事業者の都合もある」というのがドライバーの心理なのだろう。しかし、そんな時に限ってユーザーは現れる。歩行者を見張る余裕がない事業者が多いので、ブロックユーザーの怪我や事故を誘発しかねない。賢明な駐車判断を心底切願したい。

かくいう私も、図書館で点字ブロックの正しい敷設方法を論じた文献やブロック考案者にまつわる良書に出会い、対面で音訳者に読んでいただいたからこそ、存在意義を深く考えられるようになったと思う。ある文献には視覚障害以外の属性の方の中に、ブロックの形状がつかず原因になる・経年劣化などの理由でブロック自体を嫌う人もいると知った。点字ブロック設置はまちづくりのシンボルともなり、視覚障害者の歩行に欠かせないランドマーク。ユーザーは最善の注意を払い歩いている。全ての皆さまの温かいご理解ご支援を賜りたい。

(渡邊健一)

### 図書館と市民をつなぐ会・相模原 会員募集中!

一緒に活動していただける正会員を募集しています。

また、賛助会員として協力していただける方も募集しています。

年会費 正会員 1000円(学生 500円)

賛助会員 1口 2000円



## 総会が開催されました

2024年4月20日、図書館と市民をつなぐ会・相模原の総会が、ソレイユさがみのセミナールームで、今年もZOOM併用で開かれました。来賓として、図書館の長沼担当課長が来てくださいました。

今年は、つなぐ会が2009年に発足してから、満15年になります。コロナ時代も終わり、新たな思いで再スタートとなりました。調べ学習も、図書館ひろばも、そのほかの学習会やウイキペディア・タウンや図書館見学なども、従前の形に戻ることにしました。どうぞご期待ください。

そしてまた、15年の節目を迎え、これからのつなぐ会のあり方についても、みんなで再検討する機会であることも確認しました。(山本)

## 図書館との話し合い 「中央図書館機能基本方針」をめぐって

4月の総会の時に、来賓としてお出で下さった長沼担当課長のお話のなかで、「中央図書館機能基本方針」が公表されたことをお聞きしました。

私たちは初耳でしたので、こりゃ大変ということ、運営委員会でその対応を話し合いました。そして、各人がよく読んで、疑問の点、もっと深く知りたいことなどを出し合い、図書館から説明していただくことにしました。そして21の質問項目にまとめて図書館にお渡しし、7月30日に話し合いの場を設けていただきました。つなぐ会からは7名、図書館は宮下館長と渡邊主査の2名でした。

最初に宮下館長から各項目についてご説明い

(山本)

ただき、続いて意見交換となりました。そこで話し合われたいくつかの話題について、ご紹介します。

まずは、読書バリアフリーセンターとしての中央図書館の役割です。「社会的包摂」や「読書バリアフリーの視点」などの言葉はありますが、既存の視覚障害者情報センターとの関係では、情報センター等の関連3施設を改正図書館条例には盛り込まないとの回答でした。基本方針の中で、情報センターのことを「専門的な図書室」としたことへの疑問や懸念が議論されました。中央図書館として、全市的なサービスを具現化することが今後の課題です。

次に蔵書規模とその構築についてです。全市で170万冊というのは少ないのではないかと、そしてその構築のために、どのような組織、体制で進めていくのか、などについて話し合われました。

また学校図書館との関係についても話題になりました。子どもの読書を支える観点から、団体貸出以外の方法も必要ではないかと、また読み聞かせボランティアの養成と研修も積極的に取り組んでほしいなどでした。また経営の視点から、公共財源が逼迫するなかで、民間資本の導入や連携をどのように進めていくのかについても話題になりました。窓口業務の委託は以前から行われていますが、いま進められている淵野辺駅南口再開発事業の中で、施設整備や今後の施設管理、サービスの委託化などは念頭に置いているとのことでした。

ここで話し合われた中央図書館機能は、いま進行中の複合施設の中の図書館で、具体的に示される必要があります。その意味で、今回の話し合いで終わるのではなく、建物の進行に合わせて、節目ごとに話し合いの場をもつことが大切だと思います。

(山本)

## 編集後記

久しぶりのつなぐ会の図書館見学。多摩市立中央図書館は展示や掲示に工夫がされていて楽しかった！  
ずっと居たい、また来たいと思わせる図書館でした。(Y.N.)